

薬事情報センターに寄せられた県民・医療従事者からの相談事例

(2015年4月)

【相互作用防止】

Q：バルサルタンとアムロジピンを服用中。歯が痛いので、家族に処方されたロキソニンTMを飲んで良いか？（県民）

A：降圧薬とロキソニンTMで、降圧作用の減弱や腎機能悪化のおそれがあり、併用注意。また、他人に処方された薬を服用しない。

Q：パキシルTMCR、ミカムロTM配合錠BP、トリクロルメチアジド、フリバスTMを服用中の患者。セフゾンTM、ロキソニンTMとの相互作用は？（歯科医師）

A：パキシルTMCRとロキソニンTMで出血傾向が増大するおそれがあり、併用注意。降圧薬とロキソニンTMで降圧作用の減弱や腎機能の悪化のおそれがあり、併用注意。

Q：ガスマチンTM、ニフェランタンTM、センノシド、ジスチグミン、ドネペジル、ツムラ抑肝散を服用中の患者。フロモックスTM、ロキソニンTMとの相互作用は？（歯科医師）

A：ドネペジルとロキソニンTMで、コリン系の賦活化により胃酸分泌が促進され、消化性潰瘍を起こすおそれがあり、併用注意。

Q：バイアスピリンTM、プラビックスTM、リバロTM、パリエットTM、アルダクトンTMA、アーチストTM服用中の患者。抜歯は問題ないか？フロモックスTM、ロキソニンTMまたはカロナールTMとの相互作用は？（歯科医師）

A：バイアスピリンTM、プラビックスTMは中止せずに抜歯可能で、歯科的止血処置を十分に行う。パリエットTMを消化性潰瘍で服用であればロキソニンTMは禁忌。アルダクトンTMAとロキソニンTMで、降圧作用の減弱、腎機能悪化、カリウム値上昇のおそれがあり、併用注意。カロナールTMは影響が少ない。

Q：ワルファリン服用患者。健康食品でグルコサミン服用してよいか？（薬局）

A：検査値（PT-INR 値）が上昇し、出血傾向の可能性がある。

【適正使用】

Q：ノルspanTMテープの貼り換えの前に、一部の剥がれに気付いた。どうしたら良いか？（県民）

A：ノルspanTMテープは7日毎に貼り替えて使用する。7日たたないうちに一部が剥がれた場合は、再度手で押しつけるか、又は皮膚用テープ等で剥離部を固定する。粘着力が弱くなった場合は、直ちに同量の新たなテープを現在の貼付部位とは異なる部位に貼り替えて、7日間貼付する。

Q：不眠時にマイスリーTM（5）を2錠服用中。夜中に目覚めた時、2錠追加してよいか？（県民）

A：上限は1日10mgなので、追加の2錠は飲み過ぎとなり、副作用発現の可能性はある。勝手に増量せず、状況を医師に相談する。

【妊婦・授乳婦】

**Q：妊娠4ヶ月の患者。抗生物質、制吐薬は何が使用できるか？ブスコパンTMの投与は問題ないか？
(医師)**

**A：抗生物質の第一選択薬はセフェム系・ペニシリン系薬。制吐薬の第一選択薬はプリンペランTM。
ブスコパンTMの使用による催奇形性リスクの上昇は考えられない。**